



日本  
名跡





日光山

日光山

日光山  
名跡誌



手云のよと

わらめ

何と云は

てハト

序

清雲山

此山を云は地の神を鐘を  
 山川を親と侍一佛陀乃  
 雲窟に一神廟の扶護  
 志ある所なりと海東國第一  
 の聖地也新法屋一故

日本書紀



名跡  
一  
きよあはれをいし心より次除け憚る次  
二世は勝縁と結んた先身  
訪ふ人日くた雲んが利  
終るに雲區をみるも初  
来ふ心も知るもよ  
事成る心も其道志

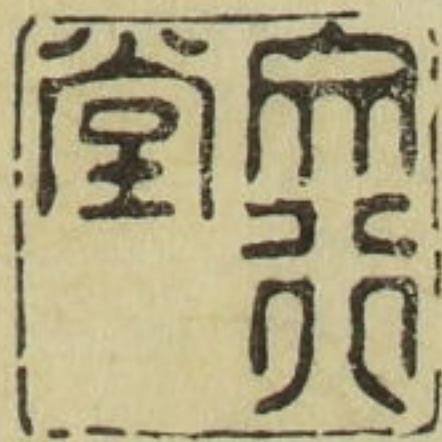
勢人事成思ひ集集一冊とが  
次分り地  
貫首大玉の巻巻を巻  
かたまたま執事の河也有り  
母もい事成行り終る様

名跡



わがばあさまのあまねく諸人に  
知れしむす事成り給ふの也

享保十二戊申二月 鷹橋義武識之



○日光山名跡誌

柳下野国都賀郡日光山人王十代孫德天皇  
乃湯宇神儀景雲元年勝道上人法開基の里  
上人の洞心芳智於室乃八幡江之法誕生法父ハ  
垂仁帝弟九乃皇太子卷向此寺十有余代の孫高田  
氏高の辰磨といひ里法母ハ正二位大后吉田清原  
乃息女なり父母等ハ子形を奉を教ふ河内  
出流山千手大士宗緒之新里路ハ七日に満



なる夜八葉乃蓮華のおろけりのれ中ハ若菜は  
 纏める懐妊の如くおろけりて覺くこと  
 懐妊一上人を生ずる則夢乃若菜おろけり  
 雅名を底系丸と号する上人幼立是思行  
 七佛教の志願く故とあつた土をあつたて堂塔  
 建立のつごとを人好む法王漸く長あつて出流の  
 観音に奉りて種々勤行乃内以度く不思成乃  
 法告あつて日光山開創始事成りて立給ひ

廿七歳乃法河回國某師とて得度し由ひ  
 之法を重んじ之平素乃志を志しとて高しは  
 本宮四年龍寺法建立海一其後中禪寺并  
 自余乃其法くと法造當あり和年ありて弘法大師  
 慈覺大師宅と志給ひ所々に堂法法建給ふて  
 星霜八百余載乃後元和法法慈眼大師中興法  
 師とてお月を好くも

東照大権現高しお御鎮座ありあつたふ高橋法



婦 三神威海内種一終も編み方山の絶  
倫なるものなりゆて糸緒乃糸緇素群とみと  
いとと西乃堂社旧跡木具便便と尋得似且  
糸緒の志一四行て糸緒半叶ざる者もあ  
ぬ色を考一冊と求む容易君也と孫一承  
遠近乃後記とも好んくとあらく一書  
綴りて糸緒結し是れもの也

### 日光山名跡誌

○神社佛閣

○坊舎并人里

○名所舊跡

○日光の道法

△日光山石筋

今市より日光を三里の石並杖

人里汝毎り石本戸はと入る○松原町 長ニテそれら

○石谷町 長ニテ町改東側小○瑞雲山龍藏寺と

り寺あり寺内小三十三観音と安直江中寺並美

大師一乃三礼乃作佛し並糸財天堂惠心の所作



なる里此寺下野坂東三十二番乃札取と云ぬり○河  
 幸町長三丁東側中程小稲荷町の横たわりの町  
 中程小稲荷乃文あり石列家神本地虚空蔵并  
 此里稲荷の文もありとて河幸町あり○鉢石  
 此町上中下三つ小別あり下鉢石町東側小横町  
 あり八丁女町といふ是より稲荷町へ毎町小清水  
 河段屋敷あり下鉢石中程小室珠院宝蔵坊と云小  
 寺ありと内六親善堂あり運慶乃印下野坂東の

札取町の町向ふ見ゆる鉢石山観音寺と云寺と  
 与内山上下千手親善堂一字弘法大師乃法印あり  
 上鉢石町南面塗物梳折曲木河と云あり  
 右入口松系町あり高町出はすを丸町長十三町餘あり  
 △下馬 此所左乃方石厩木と云里森の内  
 △星宮 鉢石あり本寺八天童子形虚空蔵菩薩  
 なる河文乃河と云小高河山北出森入峰の若勤乃  
 乃堂あり里の宿と云毎年松月廿六日在乃行者下馬



帷子一ツ條懸一糸はくく河動行一町年乃  
 二月下旬に宿より出三月二日法明出峯之天下安全  
 國王豊饒乃河新地國小守乃及ふる荒行し悉  
 く記しつて河ぬとて丸○見月明神見月明神 聖地  
 ○下衆石ありし所より東の方に見える松小倉山  
 そのて大いなる山ありて此處より東に西の方  
 ありてくく河津く津くぬるま

△御山入口 神橋 棟下擬室渡ありつても朱塗

あり此橋古ハ山菅乃蛇橋と云閑山街道上人始く  
 此の河に川小く橋形なる深砂大王忽孫と現  
 し青赤乃三蛇を放て橋あり孫上人側あり  
 山菅と新蛇小渡ひ渡り孫小山菅を  
 蛇橋と云申古より神橋と唱へ橋乃河杉  
 三通りあり日光あり乳の糸と云西の端一乃  
 乳の糸引ぬ一穴の龍宮通し一橋此河小  
 七社乃明神と勧請あり申事よ不津乃者と



渡さぐ橋のむすひの河に神事法樂法式あり  
常より法橋の東に飯橋ありて往來に

○飯橋 標子あり往來乃人馬あきと渡り大谷川と云  
川上津禪寺湖水の流なり橋の御番あり河

大乃方の坂東山佛岩谷坊舎の乃藤之坂下に  
○碑あり是は御神領坊あり南東と所と海に

逆松松平左衛門大進湯寄進乃碑あり里 同河の上  
見ゆる本宮乃社して是より神橋向に

○深砂大王乃宮 鳥居乃額は 大明院一品准后法親王

の震筆あり本也昆波門天神橋古護の天神し

△東照宮への乃藤神橋乃丸あり 壱乃坂と長坂

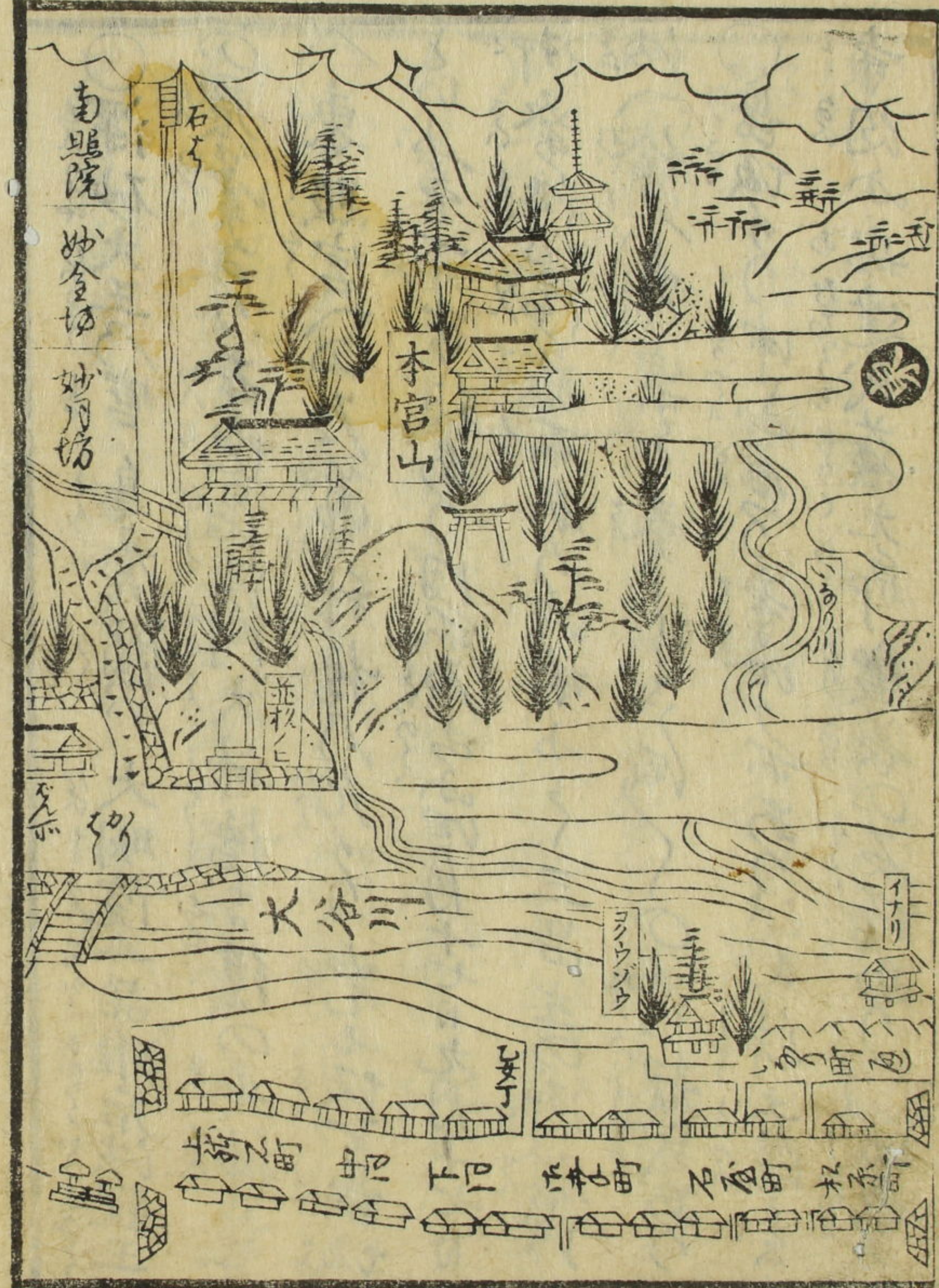
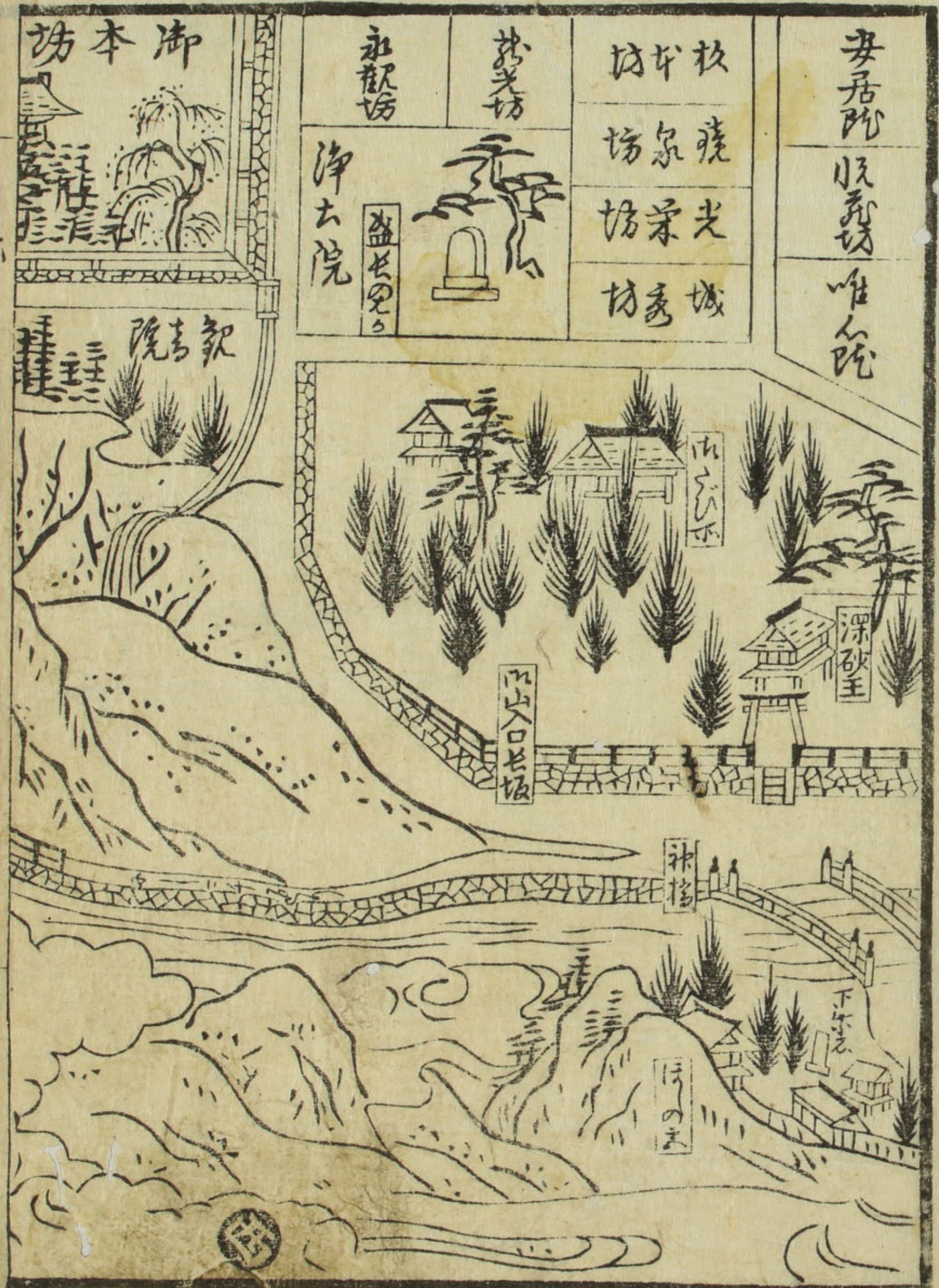
といふ壱丁半程あり河原乃よふ河月十七日九月十七日  
御祭禮の湯藤あり毛ふく三品立の河膳取

儀へ伶人舞樂を奏しと海くの河親式あり

○長坂の河中なる寺に河ありは河津土院と云  
寺内ふ安達氏孫九郎盛長の石塔あり○所表



名跡



名跡

名跡



通りたの方御園の御敷地なりたの方へ御座坊  
 輪王寺の宮とりまるとんり石唐木をぬきて  
 ○石乃鳥居 是の黒田筑前守長政の所築にかた  
 鉅石と割里南海敷百里と運く元和四年卯  
 沙寄進し御願の 埃水尾院震転した所方  
 ○五重乃塔 是の酒井 讃波守沙寄進奉る  
 東の茶所 西の法陀 火の釈迦 南の多宝 中央の天目  
 ○御被敷 是の御宮沙造督乃法時 下遷宮也

なる木なりた所あり二六時の撞と撞なりし  
 親月十番の庭とあり毎年御湯とあり則  
 庭廻乃釜三つあり  
 ○仁王御門前 此の御門前なる石唐木御石焼籠兩基の  
 美狭國司酒井 讃波守源太勝朝長所築納河太所築  
 ○御番所あり此の所あり相と此の所あり  
 諸と左右石垣の用ふ壁横之間隙に大石あり  
 此の所あり此の所あり此の所あり



○仁王御門 仁王御門の仁王 左右阿吽仁王臺一丈貳尺余裏のあり

唐獅子形此御門と今々たれた金建籠石燈籠

ありあまの緒大なる風より流す納しそそ志のあり

○御藏三ヶ所此後ふ○御一剛ありた方○摸一様

○御廐 素車造し流神馬三疋あり常ふハ下

廐に立 御祭礼の時はいふある○御番所

○御手水屋 此所手水屋みの事石柱はく建り

天井の彫物の海ふ飛龍あり手水石鉢ハ肥前

佐賀乃城主隅嶋信濃守把前より石段をびて

流す納し素車の男女手洗ひに漱石とれあり

○唐洞御華表 同たれあり○一切經堂傳大土法像

あり俗に幾何と云そそ石段を造りてたふ

○鐘樓鼓搥 同た乃方以轉舞より獻上乃

迴 金燭基あり并河蘭泥より献す釣金燈籠

もあり同た乃方小廻舞より獻する檜燈籠あり

此障子ありつる正月二ヶ日流初式の時鳴き



流球のり上わ 三十六こ 缸か 乃の 焼や 基き ありけい 色いろ 以も 徳とく 大だい 志し  
御奉納の御焼や 籠かご 籠かご 多おほ 何なに の 回まわ 西にし の 方かた  
○ 御奉納堂 御中ごちゆう 昔むかし の 業わざ 所ところ ありし 三さん 列りゅう 鳳ほう 鳥てん 也なり  
徳とく 法ぽう 業わざ 所ところ を 換か へ 二に 菩ぼ 薩さつ 十じゅう 二に 神かみ を 安やす 置お け  
此この 御ご 堂どう 大だい 伽が 藍らん 行ぎやう して 花はな 籠かご やり あり 柱ちゆう 金きん 襦じゆ 卷まき  
長なが 押おし 乃の 咄ぶつ 故こ 小こ ありし ぎく づきも 金きん 眼がん と 漆うるし 也なり  
あり 板いた 室むろ 殿でん の 矢や 井い 小こ の 長なが 八はち 間ま 又また 踏ふみ 方かた 籠かご 乃の  
給たま けり 猪いの 鬣げつ 氷ひ 真ま 女め 信しん 者もの あり

△陽明御門 世よ 氏うぢ 土つち 入い け 西にし へ 下くだ ち 力ちから と ぬき して 御ご 門もん 内うち 入い ち

此この 御ご 門もん 乃の 爲ため を 作つく ち 也なり 林はやし 裏うら 乃の 陽やう 明めい 門もん と 換か へ ち  
建た ち 速すみ 小こ の 隨ずい 身しん あり 俗ぞく 小こ 矢や 大だい 長なが と 云い ち づ 也なり  
換か へ 色いろ 一ひと 色いろ 顔かほ を せ ち ち 一ひと 正ただ の 人ひと 也なり  
ある 鄙ひな 人ひと 物もの を 回まわ ち ち 一ひと 也なり  
子こ 子こ と 不ふ 審しん 一ひと 也なり ち 一ひと 也なり  
を 立た ち 御ご 門もん の 御ご 額がく へ 後ご 陽やう 成せい 院いん あり ち 也なり  
此この 一ひと 之これ の 意い 義ぎ 一ひと 也なり 俗ぞく 小こ 額がく 門もん と ち 云い ち 也なり

亦また







おのづからくた珠うさ

○神輿堂 くれい二季の 御祭礼の時御出

おのづからくた珠うさ

○神樂堂 毎日八乙女出仕神楽舞は日ごと並

○護摩堂 奉為五天尊明王十二天を安樂生業

おのづからくた珠うさ

○御唐門 素木造り内柱はより龍なり松竹

おのづからくた珠うさ

乃彫物ある物多し 向う庭の許由果又あり  
 七賢七福神木の彫物あり天井は天女の彫物  
 唐門の柱は唐木に似て當り熱くといふ  
 彫物多し町寧なる事其一枚の板をその海  
 溝のものをめく何月ど細くする所は  
 舟ひて橋飾る糸も那 織り細工妙  
 秋は今のし御屋根柱より唐桐あり恙  
 むし業おのづから御門乃た右











△御本社

柗當御社人王百有金代

後陽成院

後水尾院 御定に為る天皇

武將小休

也少して吐振乃骨を躬にて

乃海八島

高麗唐方をそとせり

海老

御治世年

久安

二年に月十七日御壽筭七十三歳

海

界あり慈く慈眼大師と稱す

海

山王神道と云く

以時

勅使下向

東照宮

大権現と尊号と贈り也

天下

と掌乃内ふせき勢あり

鶴乃

鬘幾重のりて泰平を

さ

成し給はん事印し

大なる

以よるものなり

光也

乃應作相殿い摩多羅神

おまを

東照三社と

子亦

十五



九月十七日御神事あり四月十六日ハ例幣使  
 と下ハ一給ハ宣命ヲ推ス武江あり 御名代  
 とト高家元一入侍奉勤回 御祭禮  
 一々大急流二人奉勤則 御祭禮  
 當社の湯親式嚴然ある新ハ中ハ等音ハ  
 津くハ正五九月ハ御座美の宮様  
 あり一山住僧元社役の勤ハ伶人出仕あり  
 天下安平乃湯新里あり

○奥乃院 御本社の後山上あり 御宝塔一宇あり  
 洞方の兼湯拜殿湯室藏あり湯室の湯とあり  
 糸湯川あり 御宮の下の仁王湯門あり  
 乃の寺 ○御別所大樂院  
 東照宮湯別南寺なり毎日あり 神供  
 備へらる湯の仁王湯門あり西乃道ハ 新宮  
 権印の湯場あり是より三佛堂あり二下  
 湯物志の湯あり



△相輪標 徳の傳教大師六十四句乃法教文と  
 記し之巖山は始り日本六所不達也といふ  
 是六十余州の法行あり功德無量あり法を以て  
 慈眼大師高山小沙達立ありといふ  
 人倫の及ぶ及ばざるの類ひもて佛果  
 得とす佛性を親しく一見徳縁の筆に現在に  
 益量乃罪を滅し未來の永く三悪無  
 離事入るすゆめ疑あるべからば甚深微妙法

有ありと云くりく記し之  
 △新宮の鳥居 御願 正一位勲一等日光大権現  
 とあり一品宮公寛親王沙都意願あり  
 △三佛堂 高山一乃大伽藍之由是の弥陀古塔  
 九尺五寸千手馬頭おのく八尺五寸慈覺大師の  
 所作あり日光三社大権現乃法本也堂之堂は  
 肉乾の隅小勝道上人乃法影あり段の隅に  
 軍荼利明王の像あり法堂の謂永きれを



略くとも進より一丁後と申す

○常行堂 本堂は宝冠乃孫院に奉遷後小

摩多羅神立の堂は頼朝系嘗納め

とて後小形納堂といひ凡世堂は人王五十九代

宇多天皇乃御宇寛平五癸巳年奉削あり

あうく指を削り八百五十年有餘奉よ乃へ里並く

○法華堂 本堂普賢菩薩鬼子母神土羅刹

三番神傳教大師乃由彩あり此堂は河内

人王五十三代淳和天皇此法堂は天皇二己巳年建

立なり此堂は傳教大師法華の法華經一部

納めありさういふ由堂のる乃あり是と二西後と堂

△慈眼大師堂 天海沙廟あり寛永二十癸未年

十月二日由入寂あり勝道上人乃高島山五十一代

の由座主乃申奥の御園山形乃凡

東照宮尚ふは鎮座あり乃万代不易の基と

新し御を御とす大師の由種あり乃海乃



乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの  
乃水○稿荷の中あり○石佛乃云云あり河内たの

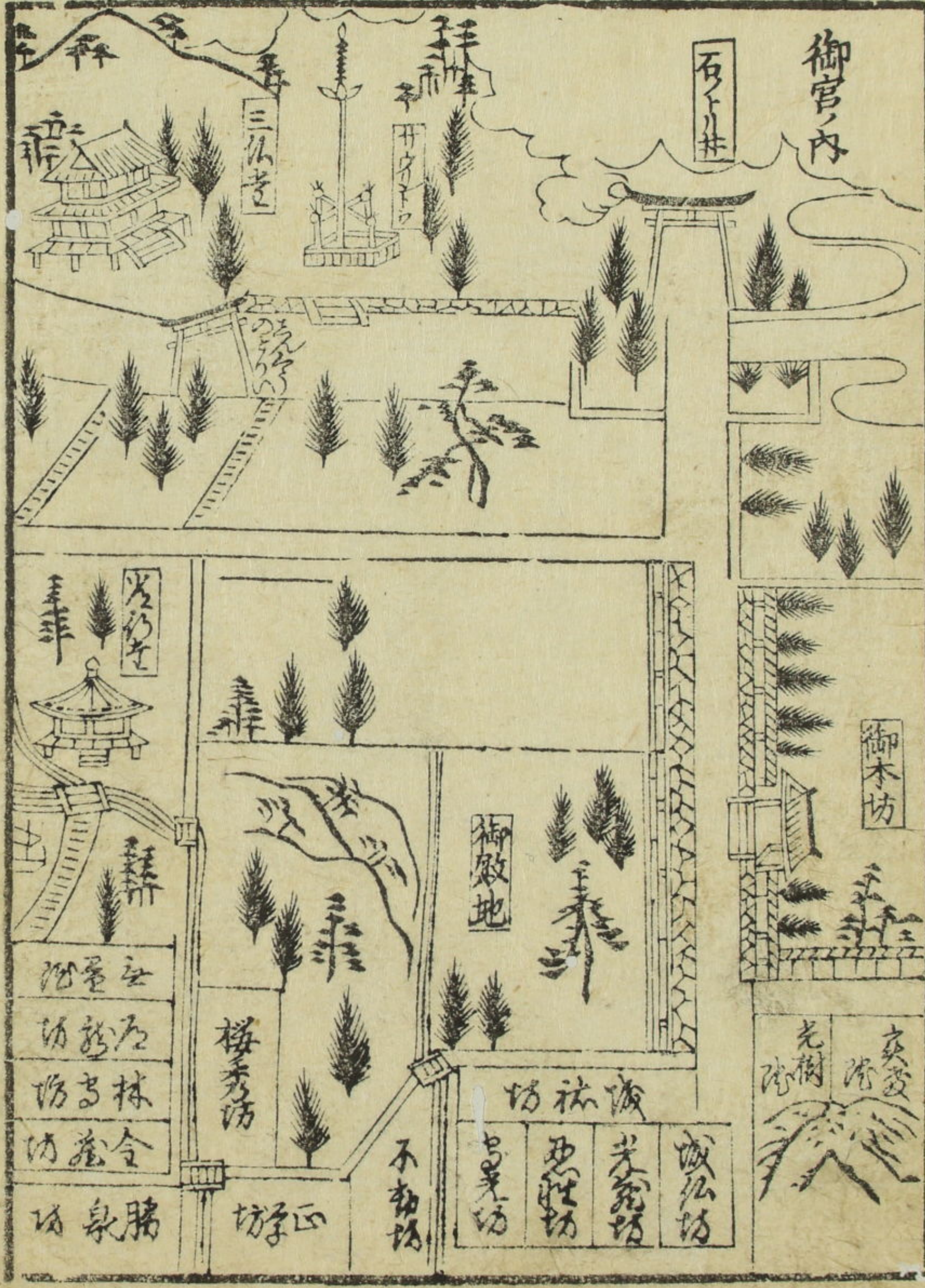
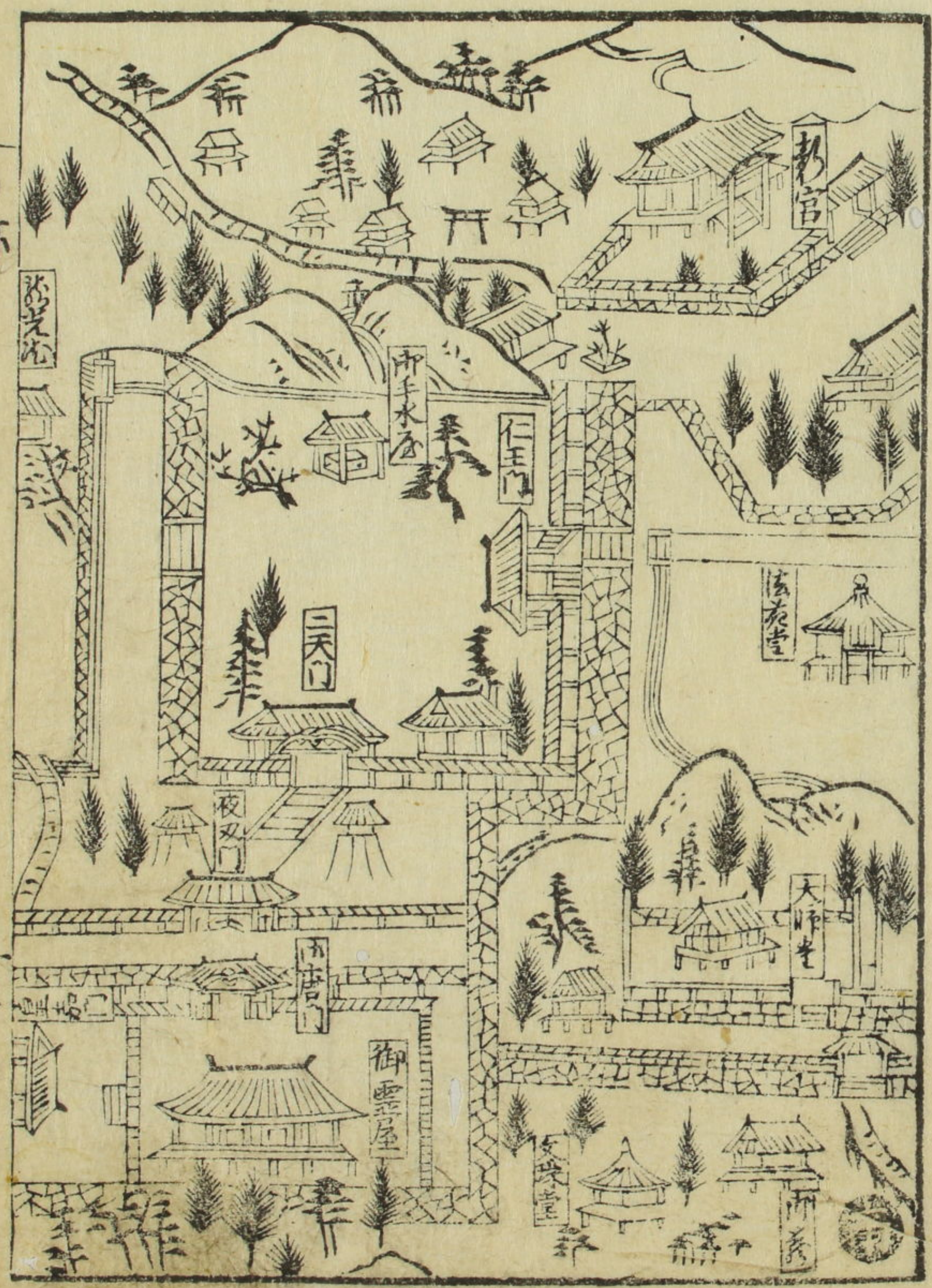
三丁ほどあり○御別当兼量院の寺あり  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界  
△大猷院様御霊屋 慶安四年四月廿日 御地界

新色

五



馬亦



谷路

十九



辨鮮より其ざる金槍筋あり此所堂の集積  
 と申すこれ毎季正月廿日四月廿日 御名代  
 とて大名元祭勤なり其不詰云森澤老津方  
 多里代孫あり河内水のこ  
 ○所別不統光院 毎朝所膳と傳ふ  
 △新宮大権現 八棟造ありあり拜殿あり  
 日光山大権現と稱しなる岳連ハ大已貴尊不世ハ  
 子手親音あり社以とを仁明天皇此嘉祥年中

慈覺大師法達立形凡園中の大社あり  
 東艦はもろく之権現乃所利益五穀滋乾福  
 徳圓滿乃所裨形乃方氏奉之作さあり  
 ざりなり 神宝は 福切丸 芥世の御重 太刀  
 拍太刀乃重も五尺余あり其銀あり赤小山別宿  
 是の奥列 泰衡追代乃御持 是の奥列  
 是の奥列 泰衡追代乃御持 是の奥列







○大黒天堂 運慶の作し ○十五堂 ○地藏石

うまじい向のよるものハ龍光院毒門形のはり

友乃方滝乃尾乃入 新まより滝尾まで十二丁

余あり小坂と中屋に

○薬師堂 此のあり氷水出るとれと海と目と

洗へる後翳立ふ晴る是はゆりて圓洗茶師と云

○行者堂 坂乃通のあり本号は行者し

あふ道公寮并ふ ○御番あつ坂乃り藤ふ

○石橋あり 是と並遠橋と云 くれあり 大小使林の割の

所ありとて是より一丁海なり

△山王社 向拜造りありありと居あり此社ハ

あ祥年中 慈光大師山造宮聖真子大権現也

所好名村山王と仰ぐ七社乃内あり

○不動堂 本号三童子とも運送の作しは向ハ

滝尾とては流し石馬あり中絶ふ ○三笠

赤倉大明神乃石社ありたの方ハ ○坂中不動石佛









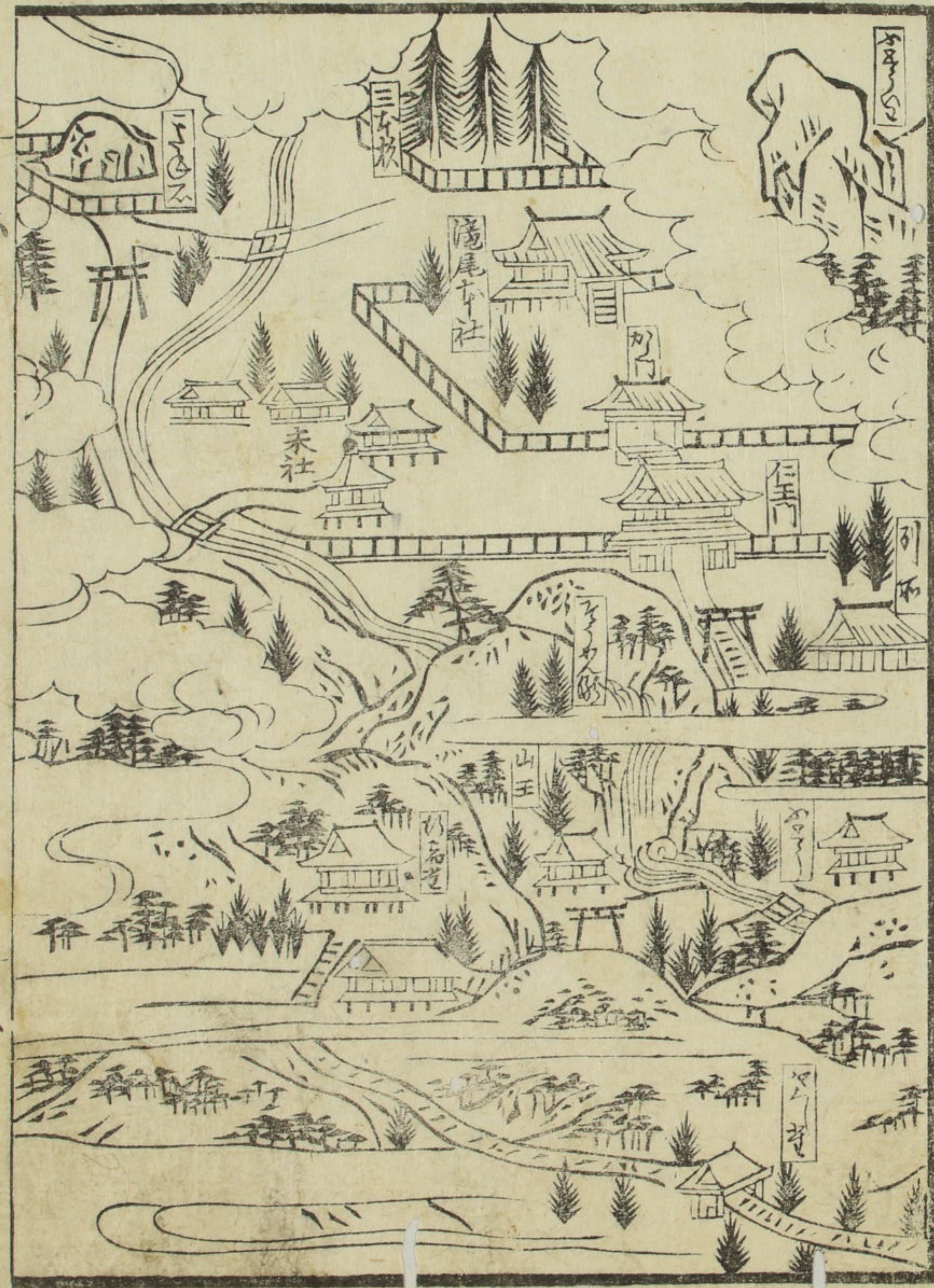














のあり ○日本裏に上人の所墓所法守子のあり  
墓あり上人の所中禪寺上野橋小御寺あり

△御産宮 向拜造り尚社本世普賢菩薩之

じ所よおわく懐胎乃女立彩を造を安産の

より奇妙あり河原乃三三ふ

△白山権現 本如大形十一面 えてく造り坊舎の

あどぬりて本交(づる

△小玉堂 鳥居拜殿あり尚社天神墨比神

あり本必金輪社のいちまは秘半きはんをを影かげ

ど一是あり一丁傳でんりて本宮ほんぐうの場ば月つき入いるる橋はしと

とあり 本必金輪社ほんひんごんりんの堂どう

△四本龍寺 宝形たからがたあり本宮ほんぐうハ千手せんじゆ観くわん音おん并ならに

大おほ多た多た傍はた道みちと多おほ多たと尚山しやうざん開ひらかしのとと上人じやうじん住すま居ゐ

あり

○三重塔 本寺ほんじ 秋あき旭あす 文珠ぶんじゆ 普賢ふけんし

○御本社 本ほん子こ秘ひ教きやうあり 本宮ほんぐう大権現おほごんげんの











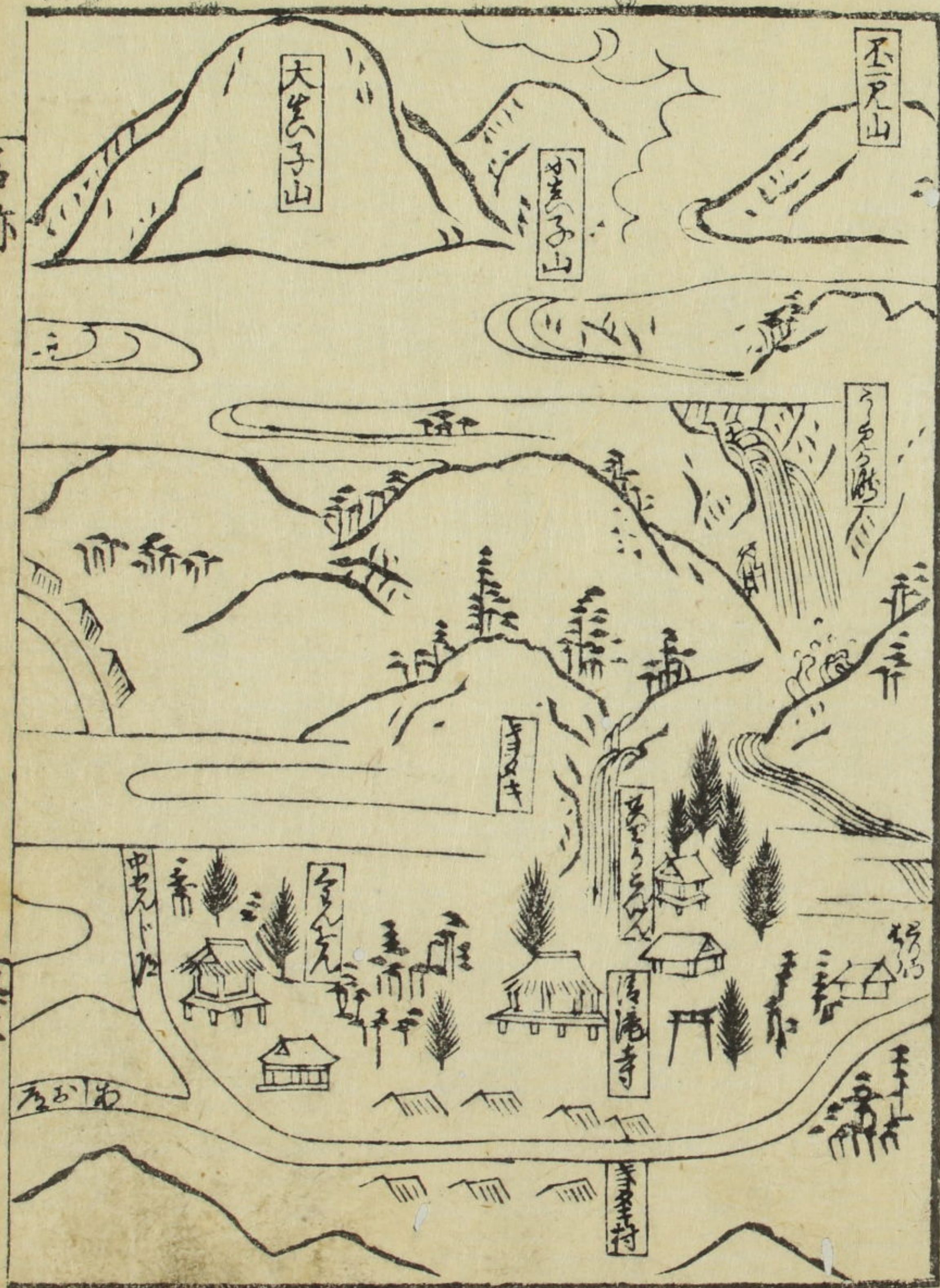
本寺住像の秋也 文殊 善賢 慈悲の所也  
英慈殿大脚の所影あり 大猷院様殉死乃  
緒士位牌あり堂の外に殉死の石碑とありは堂あり  
常住不長念佛と佛と堂にうーろあり

○愛宕山大権現 号形春日社にして西成寺也  
○八幡社 南所の藩守あり英小○六比義堂法堂の  
うしろとあり宗光寺あり神橋あり宗光寺と平  
町余あり走及入口の御小○延命堂とあり七八町

りて○池石は石のよふ不形ありてとありあり  
又俗ふ云むうしはげととあり馬の中より出ぬ馬  
蹄の跡ありとをこれか六丁経ひて宗光の地又いふ  
三本杉 尚山一の大杖あり大の牛河ありと  
べー乃と接とく二乃木お對甘りやよおは茶  
ありとてやうと六七丁なりたれり  
○常念佛堂 本寺の除院三号熱心乃法也あり  
あまの別は地と安置及世堂あり釘念佛乃

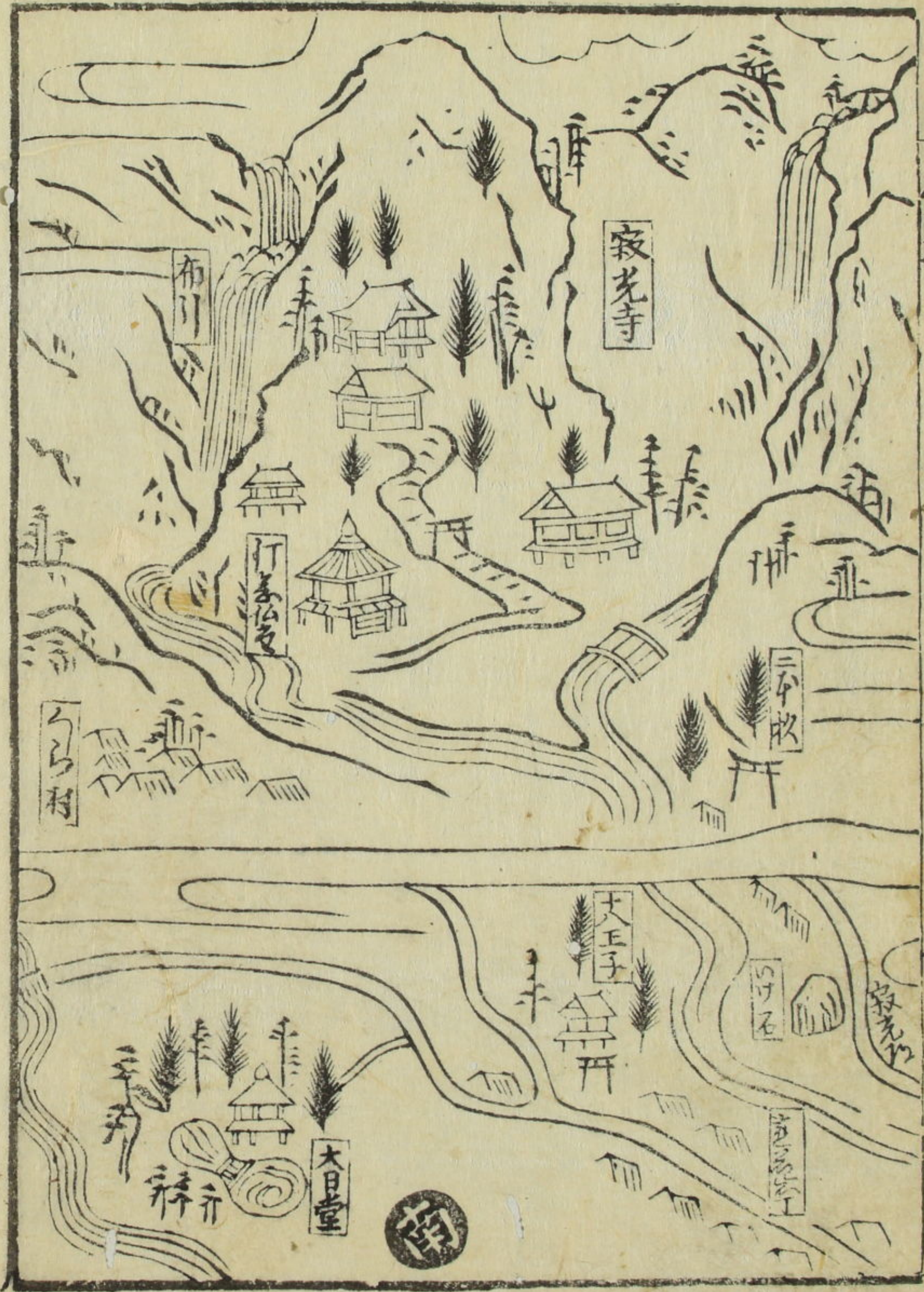


名跡



三三三

三三三



三三三



札幣の備ひるも又いふは納りありこれよりて  
 常任不怠乃念仏廻りて御所堂にあらは  
 行高仙の大祖覺源上人の御影あり覺源上人  
 圖王より治具せし一請取乃印文ありしりし  
 此所の御影あり是堂乃南少満里小寺にあり  
 ○東國持堂 中宮の虚空藏并慈覺の御影あり  
 彩の一品准后法親王宸翰ありて是より書置入  
 て御所のくわ○三十番神堂 是より書置入りて

○不動堂并 ○三笠赤倉の御社あり又是て○拜殿  
 ○御本社 実光大権現の御下照姫命本地垂迹天  
 久の御社の弘仁十一唐子年弘法大師御開基し  
 御宝物の十二の御手紙白身乃續其の御影あり  
 是れより源ありその源もろろ遠く栴檀  
 里より見ゆごとく是より栴檀の布を晒がごとく  
 滝乃南小寺ありしりし巖窟のたのむりし  
 是より見ゆ乃御字と空海より書置入りし地あり



上ふ○二子山○大馬山奥ふ令○富士見ふあり  
 けふの富士乃高根見の杉ゆい○川俣  
 温泉あり○別所あり寺あり○御本結あり  
 下りて○別所あり寺あり○御本結あり  
 安曇と此寺の良乃ふ○羽黒滝と入湯あり  
 ありの海あり原田あり本町大工所と毎るあり  
 △往生院 此の墓あり樓門の窓あり  
 乃寺に妙覚門とあり此寺の宝物あり

○阿弥陀堂 奉養三尊乃延慶寺の地あり  
 あり大谷川の橋とて建を向河原とて小町あり  
 △慈雲寺 神橋あり乃延慶十三町あり  
 奉養の慈雲大陣し涅槃の釈迦あり寺のあり  
 大谷川なりこれあり乃上  
 △護国堂 此の舎満が淵あり向ふ此堂のうへに  
 不動なる佛淵と懸てあり此堂の淵あり  
 あり憾捨の梵字ありこれあり



山崎小 ○石躰乃地蔵を教河志くばし前の川端小  
 ○灵庇閣 此閣より眺むるとその絶景も有  
 庵くば眼と候し世を境新溪此水首河廻  
 り勢を香燭集乃香雲城乃持料坐すぐら  
 舞よ得たり其向のまふり ○赤柳くまの  
 高ぶれんぐしなれし岡此奥小  
 ○骨堂 大さねら岩と切ぬさう中へ衆の  
 骨骸納むるは羅ふみの書する碑あり例小

石仏の大地蔵あり 座像を其 此後大なる例あり  
 慈雲寺の門と入るあり此道も二町ほど皆いさ乃  
 境内あり色々の名あるふありありこれ此  
 赤松寺はくまぐし仏とを板小梵字名号あり書  
 ぶると求く信衆はる半なりま川灌頂をも云  
 此所を岡東北高野とて里傳ふ紀列言野山  
 乃出深は長く劣すト此其地なりは山の奥小  
 ○素野滝ありま ○平石く十五の巻あり

子亦

三六







石ありとせらるる海津衣の方せりくそまといふ  
 △二の文山 本地薬師如来金剛童子乃堂あり  
 かけりしほごま○金剛山いふふ化粧の窟を入  
 伏の窟あり秘窓鞠りの乃備ありい所へ  
 人少ふ所む母津ごまふまごまふあはれゆふ  
 ○松立山とれも入峯勤行の所ありありといひ  
 小見くく嶽くは皆男神の立せあり所あり  
 くりく記ごと

△中禪寺への道筋 但神橋より中禪寺三三  
 里

原野ふり田母沢の橋とせりて川  
 原

蓮花石所坂とせりて○山麓堂あり所の中

蓮花石ありいふいじう橋道中禪寺

庭りせりて時中とひ路とせり里ありがゆへに

忍びく蓮花石とせりて人のためありのち

△十八王子 是の所の落寺し是より三西余志の

久ふ久二良村とせりありい村の社家危最後の地



志村小△茶降堂 マウーダウ 久登堂 希士神十五  
 本堂茶降二茶 生まんびー  
 棄新婆等し神ののあり又志新を所より  
 二所余坊くたの敷△大日堂 久登堂 本堂茶降の  
 大日し千解佛と安靈は河前小知茶堂の  
 此所の世能龜の伏がぞう 籠小降と向大流清く  
 等縁ありてお深縁乃ゆり偶は所小立巻に  
 少好く巻はも巻はあきりありは海毫小  
 かく巻しつ巻し又大日堂の別巻たより

志のくえ乃法二十所行く  
 △裏見が瀧 又湯及少ありも此をこ  
 このうらえが瀧の巖さう巻く巻くしつあり  
 巖く巻く巻くしつありのさう下巻たのさう出  
 巻く巻くの下と巻くしつあり巻く巻くしつあり  
 しつあり巻く巻くしつあり巻く巻くしつあり  
 元日奉に巻く巻くしつあり巻く巻くしつあり  
 じつあり巻く巻くしつあり巻く巻くしつあり



○砂子沢橋ありむらあり ○産れぬ足痕  
 ある名ありたのこふ ○鶴掛山 ○煩惱山あり砂子  
 沢ありあり ○鳥井系地蔵堂ありこれ清滝村  
 △清滝寺 寺勝福山と云 本寺子女の地蔵あり  
 聖徳太子不勅者ありび寺ハ妙道院本寺と  
 ありありふ砂子沢の住持いさむはく報ありありふ  
 ○清滝権現 び砂子神ハ天竺響の清山ふ金比呂  
 神とありえ仏法擁護乃清神あり正月三日

乃る獲六修りありいさむれりハ巖屋屋と  
 ありありあり清滝と云はれ人屋又下坊と  
 ○観音堂 本寺子女観音あり清滝上人  
 中禪寺 本寺乃観音のうら来と云はれ  
 あり清滝七尺なりりし中禪寺女林割分  
 是を此ありありと云はれ男女と云はれ  
 法をせ給りし坂東十八番の札と納りし堂あり  
 たれぬのふい ○足尾村と云はれ洞山ありあり







蘇那の所にて凡多蔵は多岐ひある一山に  
住者も此の地に別て六仙境を今と遷する  
易辨も人如ふも此の若好も汚濁の  
信公行の跡を凡の事如くその  
半後人といふも此の如く記するも  
西とう一山に湖水長三里幅二里あり  
海あり四面に茂林脩竹あり湖  
の深さ一丈に魚ひとも此の湖に  
深されを魚ひとも此の湖に

深されを魚ひとも此の湖に  
熱く浅く大湖三ありその外に湖と  
も此の湖十八湖あり也る山の頂  
奇代乃君の如く生る湖は凡の  
あつちをさるる本れ大島岳と  
不動堂 本寺五夫明王 妙見社 又夫玉の  
あつちをさるる本れ大島岳と  
立木観音堂 本寺千手観音  
長一丈六尺并

名跡

四三



田天弄像あり傍に上人立丈と七の儀あり彫刻  
 孫の像坂東十八番乃礼西の系備の人用帳  
 と新の別所の装束のひをさく用帳す  
 凡他より例なり其像あり 夫等の像は法の  
 備道と人の法新あり

○御本社 亦に拜殿あり 為社大権現の日光  
 三社乃中社乃々本世弥陀子馬延慶年中  
 乃法造堂あり神室ハ 藤悉地經一卷 金乃乃

法華經一部 八葉の鏡一面 水中の香爐 赤城の  
 筆葉一管 海竜王の赤衣一羽 善無畏の書  
 授子乃珠教 猪乃上人法施の厨子あり降  
 陽杖いふあり 毎年正月宵 氏射の糸  
 とくあり社司高山一々上別赤城に方にむる  
 矢と放の赤城の神社の神敵なりといふ矢則  
 赤城明神乃鹿に立氏をい日矢ぬと乃降と  
 秋初めの矢と扱とと里ありふとと赤城に





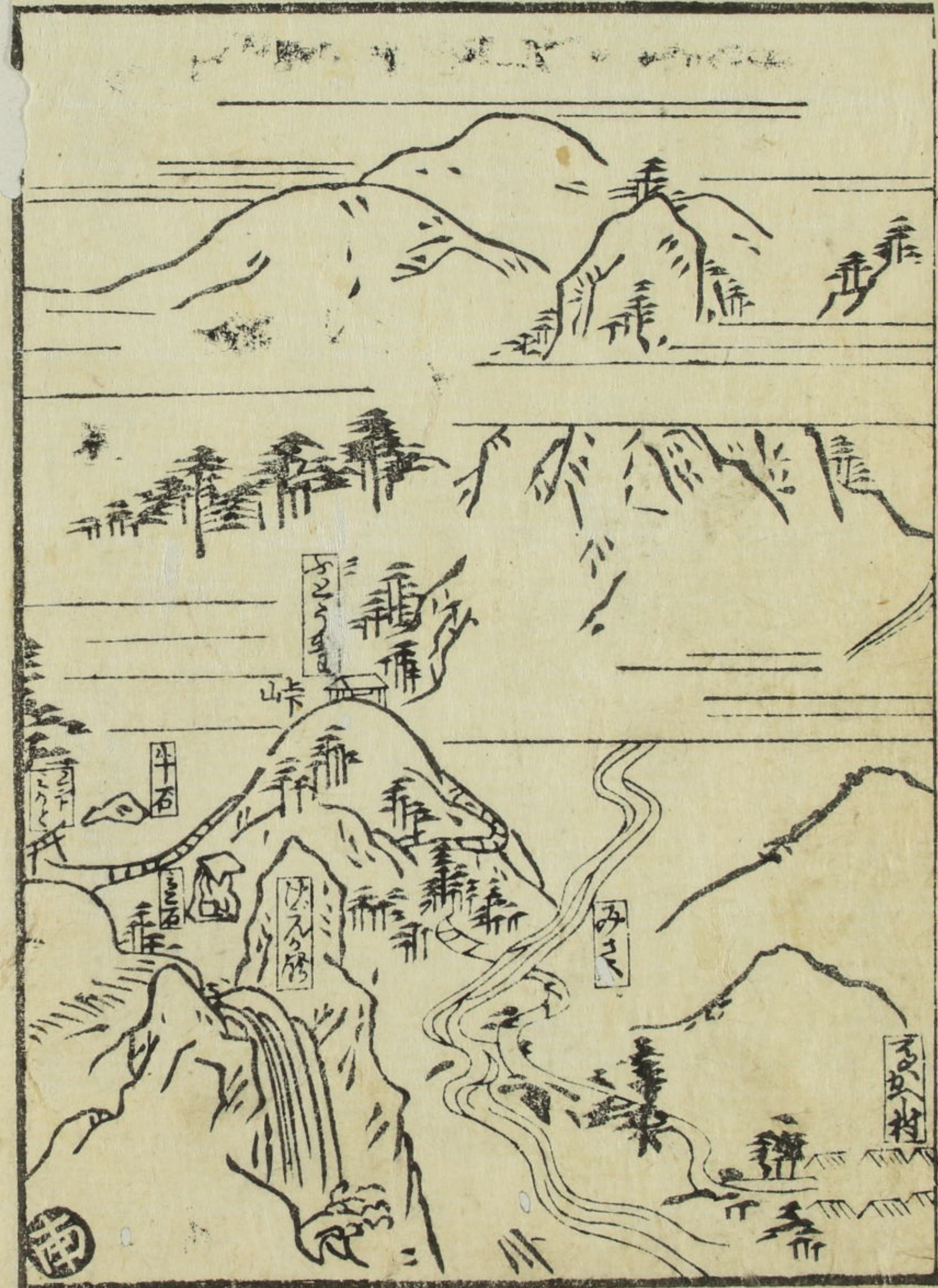


名跡



四三

名跡



四四

南











交へ時ありぬ妻ふ事ふ仙代せり  
 又も命あはれ聖のさへ花弁のちるあはれをば  
 と修務のふあををいせしおひま  
 ○湯滝とふと聖令とあへひま近づくは乃  
 例と通るん ○湯元所 湯吉家八軒あり  
 之月津旬より九十月乃は乃高店などありて  
 ぬり自由なり 湯れたふ  
 ○御所湯 ぬり 先父の入り ○滝湯 ○姥湯

○毎湯 ○自在湯 ○中湯 ○茶所湯  
 ○河原湯 以上湯乃品八色 湯坪十一あり  
 志乃湯乃事も積と黄疽へ忘なり自余の病  
 何はる事あなる湯源ありく 妻廉  
 し湯治の輩年毎群集せり  
 ○大真子 ○小真子 ○鉾山  
 ○帝釈嶽 ○大王山 ○雪山 ○前二荒山  
 ○三笠山 ○赤倉山 ○鈴が嶽 ○温泉嶽



○女峰山 ○太師嶽 ○月山 ○白根山

○湯殿山 男體山乃山のていほふあり此山のてい

湯殿山とて遷せし夏湯殿山とて勤て

此山よりし裏見ヶ池のたふと毎うけし

○華嚴池 是は淨禪寺御座大尾神子石の取

より去丁にけしは池の流水の流りきり教百

尋の布と曝きし初く其まき半天波の

ぬき銀漢より酒あつとくいかにてり海ふ

銀河倒掛三石梁 香廬瀑布遙相望と作

きりもめく中を母の道傳るより大木をけり

滝橋と隙石も月くあきてこびるふあふん

池の色い奇樹灵艸の初絶は海は奥あし

びあより○大平不動堂のりへきしこれあり

下向して裏見ヶ池へけふい水沢村のさたふ

乃ありて一里ほどけしとれより大日堂のり

へつづるなり



吾日光 尋如 淨刹 行一 く 務と 地る 舎く 寺  
四五日も 還留 せざ れい 巡り 廻り 一 〇

○日光名物

慈悲公鳥 約考 鴨 子 雛子

栗胤 小豆 小豆 小豆 小豆

岩茸 推茸 自然 莫 獨 活

山椒皮 川海苔 素麩 あげび

胡鬼の子 後水尾院御製

草苔の類 石南苑 白樫葵 白樫人參 黄連

子母石皮 岩芋 苔杖 石解 百合草

日光景 日光生草

細乃類 膳 曲物 挽物 指物

△諸方道法附 但日光神格あり

○御宮 七丁 滝尾 十六半 清滝 一里

○御灵屋 十丁 寂光 一里 裏見 一里半

○新宮 十丁 會満 十三丁 中禅寺 三里



○香滝滝へ一里半 林檎ひのく河原とあり好し

○かけし地蔵、三丁余 くれい小倉山のひりー菊し

○湯殿山、三里半 ○中禪寺湯元、一里 ○川俣湯元、八里

○足尾、一里 足尾と海へ上列妙徳伊香保標をへ

ゆし日光より妙義山まで二十七里余

○今市、二里 此所取木のく、森乃内河、云彼湯茶花あり

○今市より五里 ○宇敷、七里 ○麻沼、一里

○太田原、十里半 此所、真列 ○高泉、一里

△宇敷交通 今市所合ひり

日光、今市、一里

今市、大沢、一里

大沢、上渡、一里

中津、一里

下津、一里

い宿出たる事忘れりくより  
大谷寺親着へ乃たあり下  
津沢より一里半ほどあり

△麻沼通 今市所と南へ

今市、板橋、二里

今市所より、是は橋あり

ありたのこの大谷寺へ

板橋、麻沼、二里

二宿の習文、狭といふ

あり日光より、此は

い宿、此は、日光へ



大谷より一里あり  
 上座より一里あり  
 宇都宮より一里あり  
 大田原より一里あり  
 石橋より一里あり  
 小金井より一里あり  
 新田より一里あり  
 日光より一里あり

麻沼より一丁あり  
 大門原より一丁あり  
 大のこより一丁あり  
 日光より一丁あり  
 赤坂より一丁あり  
 赤坂東の元より一丁あり  
 日光より一丁あり  
 日光より一丁あり

△奥州海道 大田原より

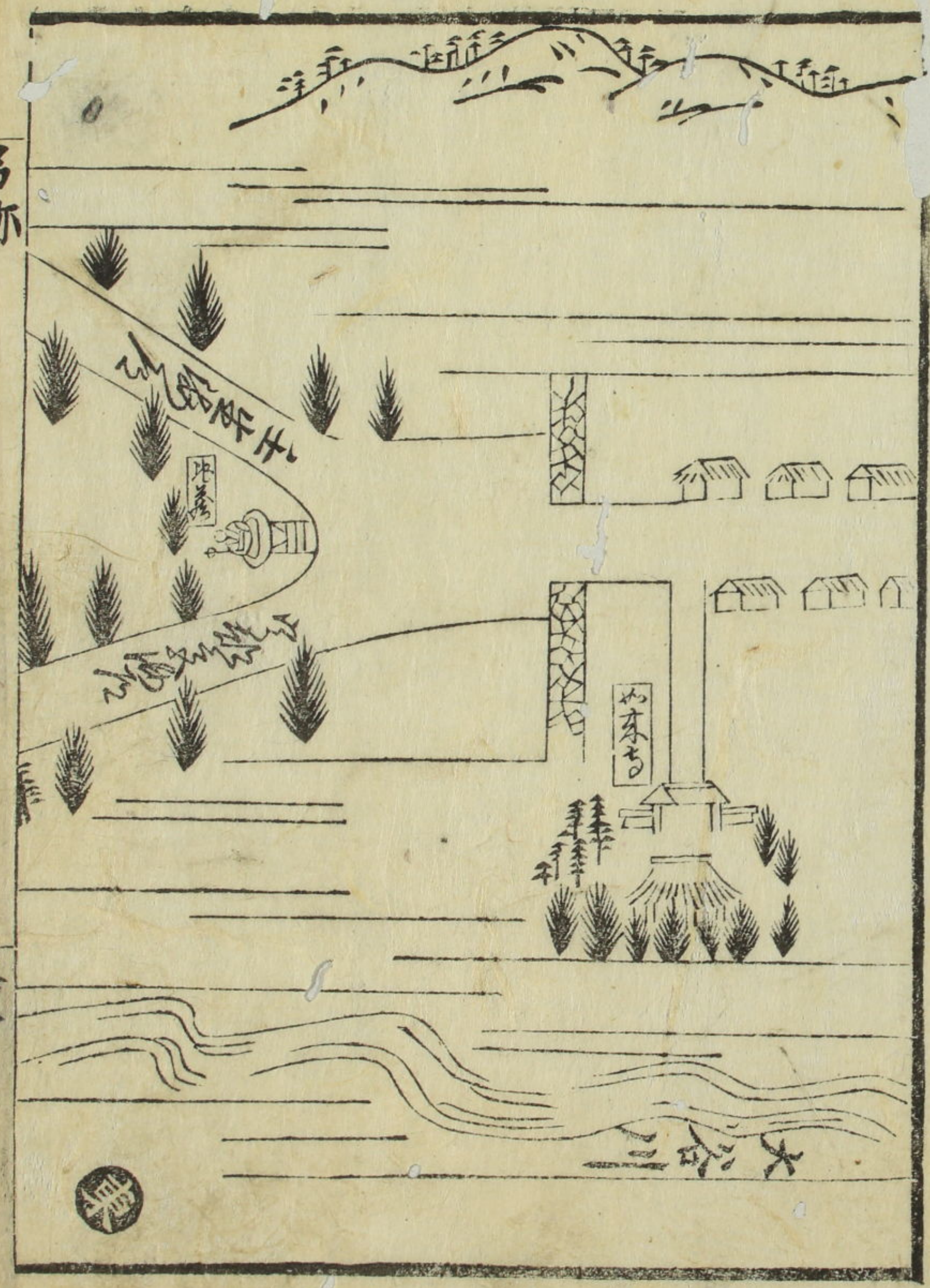
今市より一里あり  
 大谷より一里あり  
 大谷より一里あり  
 大谷より一里あり  
 大谷より一里あり

△会津海道 五十里より

今市より一里あり  
 大谷より一里あり  
 大谷より一里あり  
 大谷より一里あり  
 大谷より一里あり



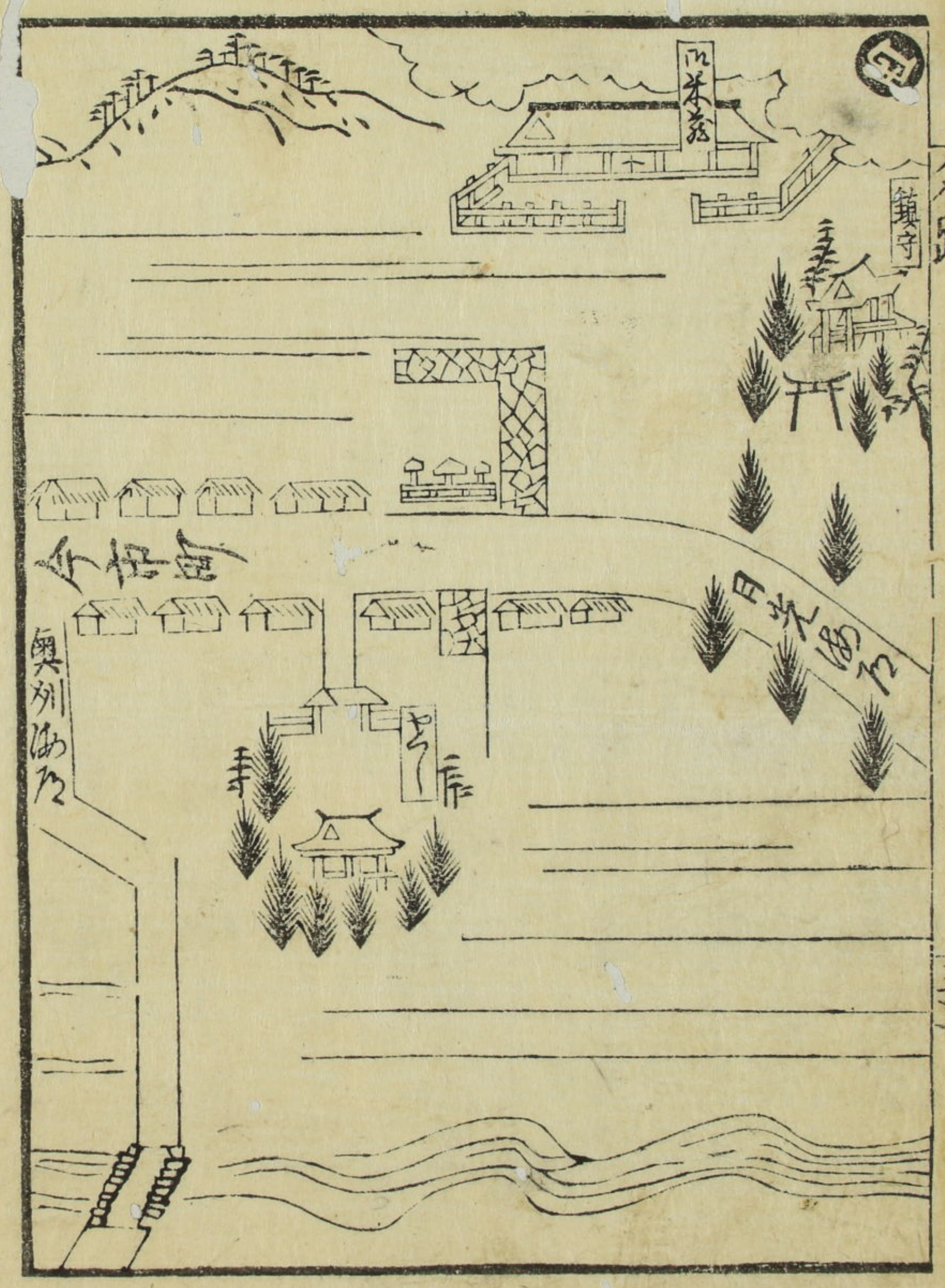
召亦



三



召亦



三





矢板やいた分ぶん 沢村さわむらへ 一り

沢村さわむら分ぶん 大田おほの原はらへ 一り半

●日光にっこうより十三里半

△佐野さの海うみを并上なみかみ列りょうの煩わづら絡ら

このふらう

榊木の町よりきよ志のうへへ入る

佐野とと磯あり

榊木さかき分ぶん 金かね蔵くらへ 一り半

合あ我が地ぢ分ぶん 榊木さかきへ 一り

富とみ田の分ぶん 大おほ伏ふしへ 一り半

比乃々ぬ川舟よりあり

高たか津つ分ぶん 大おほ原はらへ 一り半

大おほ原はら分ぶん 後のち原はらへ 一り半

後のち原はら分ぶん 高たか原はらへ 一り半

高たか原はら分ぶん 辛い原はらへ 一り七丁

金かね蔵くら分ぶん 合あ我が地ぢへ 一り半

榊木さかき分ぶん 富とみ田のへ 一り半

大おほ伏ふし分ぶん 天あま明あきへ 一り八丁

日光にっこうより十八里余

△日光山にっこうざん坊ぼく舎しゃ并な結むす彼か僧そう航かう

一山いつざん学がく院いん

東照宮とうしやうみやう御おん別べつ所しよ

御おん靈りやう屋ゐや御おん別べつ所しよ

新あらた宮みやう御おん別べつ所しよ

慈あま眼まなこ堂どう御おん別べつ所しよ

○衆徒しゆと中ちゆう二十にじゆ坊ぼく并な結むす大おほ名な氣き宿しゆく坊ぼく附つ

戸と伏ふし縁えん及及び唯ただ公こう院いん 東山

井伊掃いゐはら於お院いん及及び南なん照しやう院いん 東山

德とく学がく院いん僧そう正しやう

大おほ樂らく院いん

龍りゆう光こう院いん

安あん艱げん院いん

毒どく量りやう院いん

五亦

三三



松平右京大夫及 松平相模守及 松平薩摩守及 毛利周防守及 松平修理大夫及 酒井雅未及 松平伊豆守及 牧野越中守及 土居但中守及 太田備中守及 白曹後守及 松平加賀守及 松平山手守及	安居院 慈城院 松本院 養本院 醫王院 惠系院 法門院 觀音院	東山 日 日 日 日 日 日 中山
尾列様 養堂和泉守及 黒田肥前守及 松平土佐守及 松平安房守及 紀列様 松平大炊頭及 酒井左衛門守及 水戸様 内膳後守及 松平大和守及 佐竹右京大夫 松平出羽守及	日増院 教城院 祥智院 獲光院 苑菴院 類源院 淨土院 宗教院	東山 日 日 日 日 日 中山 日

松平若菜地盤  
松平若菜地盤  
光樹院 中山  
戸田山城守及  
秋元修膳守及  
照善院 南谷

○一坊八十字

●東山谷

赤月坊 本誓坊 鏡泉坊 永親坊	妙金坊 悦秀坊 松平坊 実務坊	美濃坊 光榮坊 結光坊 結親坊	日輝坊 佛壽坊 祐南坊 乃福坊
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------



●佛岩谷

西住坊 祐治坊

光台坊

鏡波坊

正定坊 妙力坊

澤久坊

觀海坊

龍虎坊 常觀坊

龍觀坊

大月坊

妙日坊 慈雲坊

林叢坊

高雲坊

●南谷

海泉坊 本月坊

雲觀坊

掖了坊

海山坊 通明坊

光善坊

通猪坊

熱性坊 仲善坊

高善坊

行雲坊

醍醐坊 日光坊

城祐坊

妙珠坊

●西山谷

石軸坊 智觀坊

碩善坊

高祐坊

梅正坊 海觀坊

深妙坊

龜祐坊

正秀坊 慶住坊

正花坊

觀海坊

唯教坊 什光坊

永南坊

高泉坊

●善女寺谷

性高正女寺谷の社あり

三亦

五十六



正光坊	教光坊	実光坊	大林坊
桜光坊	妙光坊	文月坊	光禅坊
林守坊	深光坊	理直坊	禅心坊
道龍坊	金藏坊	蓮勝坊	明教坊

日光名跡誌 大尾

享保十三戊申天如月元版  
 明和元甲申仲秋改版

御免板元 日光山御幸町  
 鷹橋治郎齋爾



何のりや  
 水月  
 及び

晴雲堂





